

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491300085		
法人名	医療法人 福寿会		
事業所名	グループホーム菜の花湯布院		
所在地	大分県由布市湯布院町川西3661-1		
自己評価作成日	平成23年3月1日	評価結果市町村受理日	平成23年6月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成23年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活リハビリを積極的に取り入れ、入居者の入居前の生活とつながった生活が「菜の花」でもできるよう、個々に対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・地域に根ざした事業所として、日常的な地域交流や行事参加が行われ、効果的な利用者支援や、事業所の運営に役立っている。
- ・利用者間の混乱や摩擦の際には、職員のさりげない言葉掛けやフォローが行われており、利用者のより良い関係作りに繋がっている。
- ・利用者の日常的な生活行動が、機能維持や生きがいに繋がるような支援に努めている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が		1/9			
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し自然とのふれあいを持ち、その人らしく生活できるよう支援している。	利用者の生活歴の把握を基に、その人らしい支援に繋げている。地域や環境を効果的に活用した、自然とのふれあいを実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	学校、地域の行事などに積極的に参加している。日常的に散歩や買い物に出かけ、地域の人たちと挨拶したり、話をしたりしている。	収穫祭・運動会などの地域行事は、地域からの案内があり、積極的に参加している。また、事業所行事のバーベキューや餅つきは、案内状を出し、地域から多くの参加がある。日常的な交流も行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の祭に参加したり、地域の方々に菜の花での行事へ参加して頂くことで、認知症の理解を深めることに努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1度、運営推進会議を実施し、利用者の状況や活動など報告している。意見をサービスの向上につなげている。	定期的にかかれる運営推進会議では、主に事業所からの現況や行事報告が行われている。行事後の会議では、参加者から改善点や意見も発言され、それらの意見は次回の行事の運営に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃、市町村担当者に連絡等は取っているが、今後は運営推進会議等にも参加してもらい、協力関係を築けるように取り組む予定である。	事業所の報告を行い、運営推進会議への参加を依頼する意向を持っている。	困難事例など、事業所と母体の法人内で解決に取り組んでいるが、より良い利用者支援・事業所運営に結びつくよう、市との積極的な関わりや連携を期待したい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で身体拘束をせずに行うケア、身体拘束廃止に向けての取り組みについての研修を実施し、職員間で理解を深めるようにしている。	「身体拘束」の研修は、全職員が受講できるよう、日程等が工夫され、母体法人において行っている。	研修や学びの中で、「身体拘束とは何か」の理解を深め、職員間で共有することで、より安全・安心な支援に繋がることを期待する。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等の実施は行われていないが、月に一度、法人全体での医療安全会議を開いており、虐待を含め、介護事故等の報告が行われている。		

事業者名: グループホーム菜の花湯布院

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	由布市社会福祉協議会の安心サポート等の利用があるので、職員全員が理解できるように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時に管理者又は担当職員が入居者の様子を報告すると共に意見や要望を聞くようにしている。また、意見箱も設置しており、ご家族が自由に意見や要望を書けるようにしている。	毎月、担当職員からのコメントを記載した事業所便りを家族へ送っている。事業所行事のバーベキューには、利用者の7割の家族の参加があり、日常の家族面会も多い。面会の少ない家族には、管理者が電話で連絡を取っている。	積極的に家族の意見を聞くための、事業所独自の対応や取り組みに期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的なコミュニケーションを大切にしていると共に毎日、夕方の申し送り時に職員の意見や提案を聞く機会を設け、対応するようにしている。	利用者支援を含めた意見交換の場となるよう、2つのユニット職員合同で、夕方の申し送りを行っている。職員の意見は、母体法人で、月2回開かれる管理者会議において法人に伝える仕組みになっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境整備、条件整備は常に行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で認知症の症状に関する研修の実施や法人全体で行っている接遇研修等に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の他事所職員との交流には努めている。		

事業者名: グループホーム菜の花湯布院

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。不安、不満に対して速やかな対応をする。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の抱える不安や要望の聞き取りを行い、それに対応したサービスの提供を行うことを告げることで、家族等に安心してもらい、信頼関係を築けるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるように場面作りや声かけをしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当を決め、日々の暮らしの出来事や気付きの情報を共有し、同じ気持ちで接するように努め、支援している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院を利用したり、知人に電話や手紙を書くように勧め、関係が途切れないように支援している。	利用者の希望で、空き家となっている自宅へお参りに行くなど、利用者の希望や生活背景を基に、様々な馴染みの場や人との関係継続に、職員・事業所全体で取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を保つため職員が会話の橋渡しをすることもある。		

事業者名: グループホーム菜の花湯布院

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方や長期入院された方にも面会や訪問をしている。退院後の相談にも応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者へしたい事、困っていること等を毎日聞き取るようにし、希望や意向の把握に努めている。	利用者や家族から聞き取った思いや意向を記録し、職員で共有するように努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から利用者がどのような仕事をしてきたのか、元気な頃の1日の過ごし方、家族構成、その人の好きな事や癖等の聞き取りを行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課表を作成し、個々に理解することで、これまでとつながった生活ができるように努力している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心にアセスメント・モニタリング・カンファレンスを行い、本人、家族の思いや意見を聞き介護計画を作成している。	介護計画は、担当職員、管理者、計画作成担当者で話し合い、作成している。3ヶ月に1度、評価を行っている。介護計画は、利用者の主な問題点について作成しているが、よりよく暮らすための課題についての検討が不十分である。	利用者の日常支援に活かすためにも、生活背景や思いや意向を、より活かした「その人らしさ」の表れた介護計画を作成することを期待する。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄量等身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。勤務開始前には申し送りを徹底している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、外出、買い物、通院、外来リハビリや送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努めている。		

事業者名: グループホーム菜の花湯布院

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らしていけるよう、運営推進会議に参加したりし、民生委員と意見を交換する機会を設けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっており、受診のほとんどをグループホームで対応している。受診の結果は家族に電話で報告するようにしている。	利用者・家族の希望のかかりつけ医となっている。家族が受診対応する場合も、職員が同行し、医療との連携が図られ、日常支援に繋がっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情を見逃さないように早期発見に取り組んでいる。ケアスタッフの中にいる看護師に相談し、変化等に気付いたことがあれば、適切な医療につなげている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療できるように病院関係者との連携は常時行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時と重度化した場合に家族へ説明を行い、法人全体としてターミナルケアにも積極的に取り組む姿勢である。	重度化・終末期の希望を家族から聞きとり、希望に沿った対応に取り組む方針である。	「希望があれば、看取りや重度化対応をする」という母体法人の方針を、事業所内で具体的に話し合い、指針を共有することを期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には主治医に連絡し、指示を受け、対応している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、近所の人と一緒に訓練を実施している。年に2回の訓練のうち、1回は利用者や消防団と協力関係を持ちながら避難訓練をしている。	消防団や近隣住民との協力の下、避難訓練を行っている。地域との関わりや連携が、災害対策での協力支援・災害対策に繋がっている。	

事業者名: グループホーム菜の花湯布院

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、職員の不適切な言葉遣いや対応があった場合にはその都度、管理者が中心に注意するようにしている。	利用者の生活歴・職歴などを視野に入れた言葉使いなどに努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にあった声かけを行ったり、些細なことでも利用者が決めるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調を考慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、個別性のある支援を行なっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわっているスタイルを把握し、その人らしさを保てるようにしている。意思決定できる方には自分でその日の衣服を選んでもらうようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や味噌汁、おやつ作り、後片付等出来る方は職員と共に行っている。又、季節の行事や誕生日に応じて、希望のメニューをグループホーム内で作っている。	昼食・夕食は、母体法人より運ばれ、朝食は各ユニットで作られている。献立には、事業所の畑で採れた野菜や、近隣からの差し入れを利用した副菜も取り入れている。	母体法人からの食事を配膳するため、利用者の偏食や咀嚼能力に対応出来ておらず、残食が多い。また食事時のコミュニケーションも少ない。食事を楽しむためにも、利用者に合わせて食事内容や会話の工夫を期待したい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作る献立により、バランスの取れた食事を提供している。一人ひとりの体調と摂取量を把握している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけ、見守り、介助を行っている。本人、家族の希望があれば訪問歯科受診を行っている。		

事業者名: グループホーム菜の花湯布院

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	様子観察を行い、トイレで排泄してもらえるように声かけと誘導を行っている。排便に関しては記録を取り、しばらくお通じのない方には水分量や食事量の調整と主治医へ意見を聞く等の対応をしている。	様々な介護度の利用者にも、トイレやポータブルでの排泄に努めている。入院により、オムツ利用になった利用者が、退院後の声掛けや支援により、リハビリパンツに改善した事例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量アップのためにラジオ体操や散歩、水分補給を行い、お茶の時間の水分補給の重要性について利用者へ説明し、理解してもらえるように努力している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に沿って入浴できるようにしている。拒否のある方には言葉かけやタイミングに工夫をし、出来るだけ入浴してもらえるようにしている。	毎日入浴可能となっている。入浴を好む利用者は、毎日入浴し、拒否傾向の利用者にも、3日に1度の入浴支援を行い、清拭や足浴の対応も行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで昼寝をしたり、心地よく眠りにつけるように日中の生活に配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明をファイルに保管し、全員に分かるようにしている。処方の変更があった場合は伝達ノートに記入している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持った生活ができるように個々の能力を勘案し、支援している。得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう声かけを行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寒さや天気に配慮し、利用者に散歩や買い物の希望を聞き、職員と一緒に出かけるようにしている。	個別支援・集団での外出支援が行われている。また、車椅子利用者が、日常的に事業所内での日光浴を行っている。	

事業者名: グループホーム菜の花湯布院

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理ができる方には小額のお金を持ってもらい、外出時には希望する物を購入してもらったりしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を取り入れて居心地よく過せるよう支援している。</p>	<p>利用者の安全に配慮した共有物の配置に努め、防火対策備品や生活雑貨が置かれた共有空間作りを行っている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂で自由に過されている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が居室でゆっくり過せるように、自宅で使用したりしていた物を用意してもらっている。</p>	<p>利用者の個性に合わせた居室作りに努めている。介護用ベットを利用し、利用者のコール利用も多く、見守りやケアに活用している。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ等は誰でもわかるような表示をしている。また、自室にはネームをつけて、他の入居者の部屋と間違わないような工夫をしている。</p>		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491300085		
法人名	医療法人 福寿会		
事業所名	グループホーム菜の花湯布院 2階		
所在地	大分県由布市湯布院町川西3661-1		
自己評価作成日	平成23年3月1日	評価結果市町村受理日	平成23年6月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成23年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活リハビリを積極的に取り入れ、入居者の入居前の生活とつながった生活が「菜の花」でもできるよう、個々に対応している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【1ユニット目に記載】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	1/9			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し自然とのふれあいを持ち、その人らしく生活できるよう支援している。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校、地域の行事などに積極的に参加している。日常的に散歩や買い物に出かけ、地域の人たちと挨拶したり、話をしたりしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の祭に参加したり、地域の方々に菜の花での行事へ参加して頂くことで、認知症の理解を深めることに努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1度、運営推進会議を実施し、利用者の状況や活動など報告している。意見をサービスの向上につなげている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃、市町村担当者に連絡等は取っているが、今後は運営推進会議等にも参加してもらい、協力関係を築けるように取り組む予定である。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で身体拘束をせずに行うケア、身体拘束廃止に向けての取り組みについての研修を実施し、職員間で理解を深めるようにしている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等の実施は行われていないが、月に一度、法人全体での医療安全会議を開いており、虐待を含め、介護事故等の報告が行われている。		

事業者名: グループホーム菜の花湯布院 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	由布市社会福祉協議会の安心サポート等の利用があるので、職員全員が理解できるように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時に管理者又は担当職員が入居者の様子を報告すると共に意見や要望を聞くようにしている。また、意見箱も設置しており、ご家族が自由に意見や要望を書けるようにしている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的なコミュニケーションを大切にしていると共に毎日、夕方の送り時に職員の意見や提案を聞く機会を設け、対応するようにしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境整備、条件整備は常に行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で認知症の症状に関する研修の実施や法人全体で行っている接遇研修等に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の他事所職員との交流には努めている。		

事業者名: グループホーム菜の花湯布院 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。不安、不満に対して速やかな対応をする。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の抱える不安や要望の聞き取りを行い、それに対応したサービスの提供を行うことを告げることで、家族等に安心してもらい、信頼関係を築けるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるように場面作りや声かけをしている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当を決め、日々の暮らしの出来事や気付きの情報を共有し、同じ気持ちで接するように努め、支援している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院を利用したり、知人に電話や手紙を書くように勧め、関係が途切れないように支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を保つため職員が会話の橋渡しをすることもある。		

事業者名: グループホーム菜の花湯布院 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方や長期入院された方にも面会や訪問をしている。退院後の相談にも応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者へしたい事、困っていること等を毎日聞き取るようにし、希望や意向の把握に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から利用者がどのような仕事をしてきたのか、元気な頃の1日の過ごし方、家族構成、その人の好きな事や癖等の聞き取りを行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課表を作成し、個々に理解することで、これまでとつながった生活ができるように努力している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心にアセスメント・モニタリング・カンファレンスを行い、本人、家族の思いや意見を聞き介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄量等身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。勤務開始前には申し送りを徹底している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、外出、買い物、通院、外来リハビリや送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努めている。		

事業者名: グループホーム菜の花湯布院 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らしていけるよう、運営推進会議に参加したりし、民生委員と意見を交換する機会を設けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっており、受診のほとんどをグループホームで対応している。受診の結果は家族に電話で報告するようにしている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情を見逃さないように早期発見に取り組んでいる。ケアスタッフの中にいる看護師に相談し、変化等に気付いたことがあれば、適切な医療につなげている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療できるように病院関係者との連携は常時行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時と重度化した場合に家族へ説明を行い、法人全体としてターミナルケアにも積極的に取り組む姿勢である。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には主治医に連絡し、指示を受け、対応している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、近所の人と一緒に訓練を実施している。年に2回の訓練のうち、1回は利用者や消防団と協力関係を持ちながら避難訓練をしている。		

事業者名: グループホーム菜の花湯布院 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、職員の不適切な言葉遣いや対応があった場合にはその都度、管理者が中心に注意するようにしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にあった声かけを行ったり、些細なことでも利用者が決めるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調を考慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、個別性のある支援を行なっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわっているスタイルを把握し、その人らしさを保てるようにしている。意思決定できる方には自分でその日の衣服を選んでもらうようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や味噌汁、おやつ作り、後片付等出来る方は職員と共に行っている。又、季節の行事や誕生日に応じて、希望のメニューをグループホーム内で作っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作る献立により、バランスの取れた食事を提供している。一人ひとりの体調と摂取量を把握している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけ、見守り、介助を行っている。本人、家族の希望があれば訪問歯科受診を行っている。		

事業者名: グループホーム菜の花湯布院 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	様子観察を行い、トイレで排泄してもらえるように声かけと誘導を行っている。排便に関しては記録を取り、しばらくお通じのない方には水分量や食事量の調整と主治医へ意見を聞く等の対応をしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量アップのためにラジオ体操や散歩、水分補給を行い、お茶の時間の水分補給の重要性について利用者へ説明し、理解してもらえるように努力している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に沿って入浴できるようにしている。拒否のある方には言葉かけやタイミングに工夫をし、出来るだけ入浴してもらえるようにしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで昼寝をしたり、心地よく眠りにつけるように日中の生活に配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明をファイルに保管し、全員に分かるようにしている。処方の変更があった場合は伝達ノートに記入している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持った生活ができるように個々の能力を勘案し、支援している。得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう声かけを行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寒さや天気に配慮し、利用者に散歩や買い物の希望を聞き、職員と一緒に出かけるようにしている。		

事業者名: グループホーム菜の花湯布院 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理ができる方には小額のお金を持ってもらい、外出時には希望する物を購入してもらったりしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を取り入れて居心地よく過ごせるよう支援している。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂で自由に過ごされている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が居室でゆっくり過ごせるように、自宅で使用したりしていた物を用意してもらっている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ等は誰でもわかるような表示をしている。また、自室にはネームをつけて、他の入居者の部屋と間違わないような工夫をしている。</p>		